

# 埼玉の くらしと 社会保障

2021年11月1日発行 第307号

(毎月1回発行)

発行 埼玉県社会保障推進協議会

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町7-1 2-8 自治労連会館1階

TEL 048-865-0473 FAX 048-865-0483

ホームページは「埼玉社保協」で検索ください

総選挙の結果を受けて

## 創造的でわかりやすい運動を今日からまた始めよう

10月号の巻頭に「政治の景色を変えよう！あなたにもできる“政権交代”」と題して総選挙に積極的に取り組もうという趣旨の一文を書きました。“政権交代”を視野に安倍菅自公政権にノーを突きつけ、市民の政治参加を促す趣旨でした。投票率は55.93%と前回より2.25%伸びたものの若者の投票率上昇は顕著にみられませんでした。自民党の甘利幹事長をはじめ、金の疑惑など国民の大きな批判を浴びた大物自民党政治家が落選し、15議席減らしたものの単独過半数を維持しました。併せて自民党の補完勢力ともみられていた日本維新の会が30議席増やしました。一方、立憲民主党が13議席、日本共産党が2議席減らすなどの結果となりました。

埼玉では、前回自民党に492票差で敗れた12区では、16,620票増やして森田候補が当選しました。その他にも当選には至らなかったものの、8区では市民との共同候補で無所属の小野塚氏が、安倍内閣の首相補佐官や文科大臣を務めた自民党の柴山候補に6,548票差まで迫り、前回より36,601票増やし大善戦しました。一方で、自民党と一騎打ちの構図にならなかったところでは、自民党への批判票が維新に流れたとみられる選挙区もあり、政権交代につながるうねりとはなりません。

この30年余、非正規雇用労働者が急増し勤労者の賃金は減り続け、所得格差は大きく広がりました。年金・医療・子育てをはじめとする社会保障は負担増と給付削減が続いています。これは自然現象ではなく明らかに自公政治がもたらした人災です。政治が変わればこの景色は変わります。私たちは、こうした人災のからくりをより分かりやすく、今までつながりのなかった人たちにも本格的にアプローチしていくことが必要です。従来型の運動スタイルにとらわれず、創造的でわかりやすい運動を今日からまた始めようではありませんか。私たちと次の世代の命と暮らしを守るために。

2021年11月1日

埼玉県社会保障推進協議会会長 柴田泰彦

## 第42回埼玉障害者まつり

コロナ禍でオンラインと会場での開催



第42回埼玉障害者まつりは、埼玉県障害者交流センターとオンラインを併用して開かれました。

8月、9月は感染爆発が起きました。障害者施設でのクラスター発生がありました。7月に開催を決意してから、準備もままならない時間を過ごしました。実行委員会や事務局会議も少人数、オンラインで行いました。10月10日に、もしかしたらいけなくなるかもという事務局員もいました。

映像の提供、少人数での出演、何とか形になったというのが今回のまつりでした。なんとか、当日を迎えることができました。県からの来賓あいさつはあらかじめ収録していただいた映像です。夏野菜のメンバーによる太鼓の演奏は、合同での練習ができず、でも発表の機会がもてたことがうれしいという表現がうってつけの演奏でした。次の、ボッチャのゲーム紹介を、スマホをカメラに体育館から中継しました。声もしっかりと聞き取れました。ともしびは生出演、会場内に声が響きわたりました。小規模作業所の課題、暮らしの場(手記「ねがい」は会場に掲示され、スマホで紹介されました。)、コロナ禍での生活、教室不足など障害者を取り巻く課題が映像で流されました。作業所の製品の紹介、絵の紹介もありました。

会場では、戦争展、機関紙の展示、30年前のまつりの写真、それぞれ中継されました。短時間の準備でしたが、工夫を凝らしたまつりでした。来年こそ多くの人が集えるまつりを復活したいです。

(障害者の生活と権利を守る埼玉県民連絡協議会事務局 若山 孝之)

# 「10月1日国際高齢者デー」 75歳以上医療費窓口負担2倍化は中止

自公政権が強行した75歳以上医療費2倍化法の実施を中止させよう！と10月4日に中央社保協と日本高齢期運動連絡会などによる国会内で学習決起集会と議員要請行動が行われました。学習講演はオンラインで全国から視聴参加しました。

全労連黒澤幸一事務局長、医療福祉生協連馬場康享常務理事から連帯の挨拶ではじまり、千葉社保協や神奈川社保協など各地からの運動の取組みが報告されました。そして中央社保協住江憲勇代表委員(保団連会長)が「今こそ新自由主義と決別し、社会保障充実の政治へ」と題して講演されました。講演では、戦後の社会保障政策を歴史的に俯瞰し、紆余曲折があるものの福祉3法から、皆保険・皆年金、福祉6法へと発展した時期から政府・財界による反転攻勢の時期へとふりかえり、コロナ禍の今日の危機的状況の背景を解明されました。

革新自治体誕生で社会保障が発展するなかで、政府・財界は危機感を抱き、新自由主義政策へと大きく舵を切っており、特に2012年からの安倍政権によって今日の貧困と格差が拡大し、昨年からはコロナ禍にあります。菅政権ではさらなる社会保障費抑制の推進です。これに対して、国民のいのちを守るためには、秋の政治日程において新自由主義と決別する政治へ着手する必要があります。大企業や大資産家優遇、社会保障切り捨ての新自由主義の政治からの転換が必要であることを痛感する講演でした。

会場に集まった参加者らが集会終了後、国会議員を訪問し「75歳以上医療費2倍化の実施は中止して」と要請しました。

(埼玉社保協 事務局長 川嶋芳男)

## 埼玉県後期高齢者医療広域連合議会へ 陳情書提出

全日本年金者組合埼玉県本部と埼玉社保協は、10月29日に埼玉県後期高齢者医療広域連合議会事務局へ75歳以上医療費窓口負担2倍化の実施中止をもとめる陳情書を提出しました。広域連合議会は11月11日に行われます。

21年10月29日

埼玉県後期高齢者医療広域連合議会

副議長 上野 廣 殿

[団体名] 埼玉県社会保障推進協議会

[代表者名] 柴田 泰彦 印

[住所] さいたま市浦和区岸町7-12-8 自治労連会館内

[連絡先] 電話 048-865-0473

### 75歳以上の医療費窓口負担の2割化実施の中止を求める

#### 陳情書

##### 【陳情趣旨】

2021年6月4日参議院本会議で、75歳以上医療費窓口負担2割化法が可決されました。この法律が実施されると2022年後半から年収200万円以上の人370万人(後期高齢者医療制度加入者の約20%)が、現状1割から2倍の2割負担となります。

国会審議の中で、①2割負担導入による現役世代の負担軽減効果はわずか月額約30円であること、②コロナ禍の今、精神的にも経済的にも疲弊している中での高齢者への負担増は受診控えを招くことが、各種調査で明らかになっているにも関わらず、政府は「健康悪化には結び付かない」としていること、③国会審議を経ずに2割負担増の対象者を政令によって広げることができること、等数多くの問題点があきらかになりました。

コロナ禍でただでさえ高齢者の受診控えが進んでいる中、必要な医療が受けられなくなることを前提にした負担増は、高齢者のいのち・健康権・人権の侵害です。応能負担を窓口一部負担にもとめるのではなく、富裕層や大企業に求めるべきです。

強制加入の社会保険では、必要な給付は、保険料だけでなく、公的負担と事業主負担で保障すべきです。先進国では、医療費の窓口負担は無料が当たり前です。

75歳以上医療費窓口負担2割化は、高齢者の暮らしのいのち、健康、人権を守る上で大きな影響を及ぼします。

以上の趣旨により、埼玉県後期高齢者医療広域連合議会として、下記事項について国に対して意見書を提出して頂きたく、陳情致します。

##### 【陳情事項】

- 一、75歳以上の医療費窓口負担の2割化実施を中止すること。

提出希望先 内閣総理大臣、厚生労働大臣、財務大臣

以上

(埼玉社保協 事務局長 川嶋 芳男)

11月11日は、「いい介護の日」

## 介護・認知症 なんでも 無料 電話相談

新型コロナウイルス感染の拡大で、介護サービスを利用できない、家族介護の負担が増えて大変になったなど様々な悩みがありませんか。

また、高齢化がすすむなか、お金の心配なく安心して介護サービスを受けたいがどうすればよいか悩んでいませんか？  
一人で悩まず、介護の専門家や「認知症のひとと家族の会」の相談員がお電話をお待ちしています。  
全国共通のお電話番号は…

とき 2021年 11月11日 (木) 午前10時～18時

でんわ 0120-110-458

主催 中央社保協・認知症のひとと家族の会

## 医療・社会保障を立て直せ！10・14総行動

### #いのちまもる 医療・社会保障を立て直せ

10月14日、「#いのちまもる 医療・社会保障を立て直せ！10・14総行動」が日比谷野外音楽堂で開催し、全国からはオンラインで参加しました。日本医労連の佐々木悦子委員長が主催者挨拶を行い「自民党政権での長年の社会保障削減路線の継続で、医療・公衆衛生が切り崩され、医療・介護従事者の賃金・労働条件は低く抑えられてきた。しかし、岸田政権は、医療・介護従事者の確保の方法を示さず、社会保障削減の全世代型社会保障を進めるとしている」と述べ、大幅増員、処遇改善、公衆衛生体制の拡充、患者利用者の負担増ストップ、地域の病院・福祉施設を守れ、診療報酬の大幅引き上げを求め、いのちと健康守る政治に転換させよう。」と訴えました。

#### 壇上にみんなであがってアピール



集会では各団体、労組などの現場から報告が続きました。保団連の歯科医師は「経済的理由の受診控えなく診療報酬引き上げを」と発言。新医協・江東区職労の保健師は、保健所が1994年の地域保健法で削減が進み、2021年4月時点でピーク時の半分に減らされた。「保健所予算・人員の拡充を」と訴えました。全日本民医連西淀病院の看護師は「新自由主義をいっか減転換しよう」と感染のリスクと隣り合わせで第1波から続く医療従事者としてのプレッシャーに押しつぶされないよう必死に働く実態を告発。新自由主義のあり方をいっか減変えようと訴えました。日本医労連・岡山医療生協労組の生活相談員はデイサービスで利用者さんにマスクを促しても、認知症の方はすぐ外してしまうなど苦労が絶えない状況だ。「利用者さんも職員も守って」と訴えました。

①いのちと人権を守る医療・社会保障つくる政治を。  
②医師、看護師、介護職員、保育士などの大幅増員・処遇改善、公衆衛生体制の拡充を、③患者・利用者の負担増ストップ！地域の医療・介護を守れ、④低医療費政策とコロ

ナで疲弊した医療提供体制を立て直す診療報酬の大幅引き上げを。」の4項目の訴えを集会アピールとして採択し集会を閉会しました。

#### 窓口負担2倍になったら

### 医者に行くのを我慢するしかない

#### 年金者組合が一斉ターミナル駅宣伝



年金者組合が恒例としている10月の年金者一揆・フェスタ、今年はコロナ感染症の関係で中央での開催を各県段階で独自の行動を起こすことにしました。

岸田文雄新総裁の党利党略による国会解散直後の10月15日に、年金埼玉は主要なターミナル駅や、商店街などで「いのち第一」「75歳以上の医療費窓口負担2倍化を中止させよ」と署名とビラ配布の大宣伝を行いました。

浦和駅西口伊勢丹前で行ったさいたま市協議会(8支部)から38名の仲間が「来年10月から医者代窓口が2倍になることを知っていますか」と署名を訴えると、署名簿の周りには3人、4人と列をつくって署名をする人が出来るなど、ビラの受取を含めてこれまでにない関心がありました。

高齢の父母と同居しているという40歳代の女性に「なぜ貴女が署名を？」きくと、「父も母も月数回は病院に通っています。2倍化の話をする、医者に行くのを我慢するしかない、とってて会話が途絶えます」と言っていました。また、買い物にきたという高齢女性は、「岸田さんに代わったから少しは期待したいが、でも、諦めるしかないのかね」と溜息交じりに応え、車椅子の男性は「自分は身障者だから医療費は免除だが、高齢者はいつ、自分みたいな身体になるか一寸先分らんのだよ」と怒りをあらわに不自由な体で署名をしてくれました。この日、約1時間の行動で40筆の署名が集まりました。埼玉県下10数ヶ所で宣伝を行いました。偶数月の年金支給日(私たちは受給日という)15日行動を今後の行い、署名行動を強化していきます。

(全日本年金者組合埼玉県本部 老田 靖雄)

第50回日本機関紙協会埼玉県本部総会

# 機関紙やニュースの草の根メディアの果たすべき役割は重大

10月23日、日本機関紙協会埼玉県本部の第50回総会がオンライン併用で開かれ参加しました。総会の前には記念講演があり、映画「パンケーキを毒見する」の内山雄人監督が「映画から“政治の伝え方”を学ぶ」をテーマに興味深い貴重なお話を行っていただきました。現代社会において日常の生活のなかで、家族や友人などの会話の中に政治を話題にすることが難しい感じる人は多いと思います。そのような状況を踏まえて、伝える側の留意的や視点、手法についてお話されとしても共感しました。菅首相(当時)を対象に取材する苦労も交えてのお話でした。この映画を観ていない方は機会がありましたらぜひご鑑賞ください。

総会で提案された方針案では、講演のテーマでもある「伝える」が今日的な課題であり、「機関紙」の果たす役割でもあることを強調しています。団体、組織の発する意見や要望などをいかに「伝える」か、大きな世論となり社会や政治を変える力になりえることを確認する総会となりました。総会では、総会方針などの議案を承認し、「市民と野党の共闘で、国民のいのちと暮らし最優先の政治実現を」との特別決議を採択して閉会しました。(埼玉社保協 事務局 長 川嶋 芳男)



(総会を知らせるチラシ)

まちから村からの連帯で  
ひとりぼっちの高齢者をなくそう!

## 第26回埼玉県高齢者大会

- 日時 11月26日(金)  
10:00 開場 10:30 開会 15:30 閉会
- 会場 さいたま市民会館いわつき
- 参加費 1,000円(主に資料代)
- ※昼食は各自でご用意ください

記念対談企画 雨宮さんと考える日本の貧困  
～誰もが豊かな高齢期を迎えられる社会をめざして  
格差社会の現状と課題を考える(仮)～



### ◆ 午前の部 「全体会」 10:30～12:30 (ホール)

オープニング企画、主催者あいさつ、  
記念対談企画 など

### ◆ 午後の部「分科会」14:00～16:00(ホール、会議室)

- ①フレイル(虚弱) 予防企画
- ②学習講座「交通アクセスとまちづくり」
- ③学習講座「75歳以上医療費窓口負担2倍化中止のとりくみ交流」
- ④学習講座「元気に生きるための『終活』セミナー」
- ⑤学習講座「高齢者人権宣言を学ぶ」

主催 埼玉高齢期運動連絡会  
協賛 埼玉社保協/医療生協さいたま生活協同組合/  
全日本年金者組合埼玉県本部  
《連絡先》医療生協内 直通 TEL 048-296-4768

## 埼玉社保協第30回総会

日時 12月18日(土) 13時開会 16時50分閉会

会場 さいたま共済会館501・502会議室(定員120人→60人程度)

記念講演 13:05～ 「今後の社会保障の動向と自治体」(仮) 平野 方紹氏(前立教大学教授)  
総会 14:15～

開催方法 会場参加とWEB(ZOOM)併用  
参加される方は事前にお申し込みください。